

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム吉田さくらの里
(ユニット名)	西ホーム
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿児島市
記入者名 (管理者)	浜田 学
記入日	平成 21年 3月 31日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「この家で共にやすらぎ 共にくつろぎ 地域とふれあいのある暮らし」という基本理念のもと、地域とのつながりを強くできるよう、地域へ貢献できる役割を探し、利用者様が住み慣れた地域で安心して生活できるよう支援しています。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有し 理念の実践に向けて日々取り組んでいるが、職員の意思統一がまだまだ不十分です。	○ 全職員が徹底していけるようにしたいです。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会 運営推進会議 花見 夏祭りなどで事業所としての基本理念を説明し、ご理解を頂けるよう伝えていきます。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	定期的に挨拶にまわったり、散歩や買い物に出かけ 近隣の人と気軽に声をかけ合ったり、ホーム前の門を開放し、気軽に立ち寄ってもらえるよう環境作りをしています。	地域住民の方々が気軽に立ち寄って、お茶を飲んだり、利用者様との交流を行っています。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭や奉仕作業など地域で行われる活動には積極的に参加し交流を図っております。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症介護の専門職として、地域の高齢者の方々の暮らしに役立てるような関わりができないか、話し合っています。小中学校の総合学習での体験や看護学生実習受け入れも積極的に行っています。		地域サロンや老人会に出向き、認知症専門職として認知症の予防活動や認知症の理解を広める活動を行っています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、外部評価の結果はミーティングで報告し、改善策を検討し事業所としての質が高められるよう努めています。		全職員が自己評価項目にある視点を理解し、意識できるよう勉強会を行い、常に振り返りができる環境を作っています。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回開催している運営推進委員からの意見、要望、情報などを参考にしており、運営に活かすように努めています。事業所からは外部評価の結果報告など行っています。		多方面からの視点を活かし、サービス向上、職員の意識向上を図っています。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者とは、介護関連等の情報交換など いろいろと往來の機会があり、理解を深めサービスの向上に努めています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な方にはそれらを活用できるよう支援している	一部の職員は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての研修へ参加し、学ぶ機会を持っています。必要な方にはそれらを活用できるよう知識向上を図っています。	○	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について、勉強会を開き 全職員が理解を深め、知識向上を図っていきたいです。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する学習会や研修に参加して、意思統一を図っています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所が予定される場合は まず事前に面談をして利用者や家族の不安やニーズを理解するよう努めています。契約時には、丁寧に重要事項など説明し、ホームの方針に同意を頂いた上で入所して頂いています。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者、家族、近隣住民の方からの苦情については会社へ報告 連絡 相談をし、速やかな解決に努めています。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に一度は、利用者様のお便りや絵をご家族へ郵送しております。金銭報告や近況報告も同時に行っています。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年二回は家族会を開催しお互いの家族との親睦を深め、その中で疑問や意見などがあれば話し合えるようにしています。また 意見箱も設置しております。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>合同会議を毎月実施し、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けています。また、日頃よりコミュニケーションを取れるように心がけています。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者様の状態によって柔軟な対応ができるよう配置しています。必要な場合には出勤者数を調整し、利用者様へのサービスが公平に提供できるようにしています。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>退職者によって 異動をする場合があります。利用者様のダメージを少なくするようにさりげなく交代ができるようにしています。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修の案内などは掲示板に貼り、参加できるよう支援しています。研修参加者は会議で報告し、意見交換を行い、能力向上に努めています。また資格取得には全面的に支援しています。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>関連の事業所や他の施設など訪問したり、地域の交流会に参加し、情報交換を行い 意識を高めるようにしています。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>事業所内や他の事業所との交流や親睦の機会を設け 働きやすい環境作りを常に考えています。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の資格取得に向けた支援を行い、取得までは本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働環境づくりに努めています。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用者様の気持ちを理解できるよう ゆっくり落ち着いた場所で傾聴するようにしています。また不安を取り除きながら安心して生活ができる信頼関係を築くように努めています。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>いつでも相談に乗れるようスタッフ全員が資格 経験 知識を活かして対応できるようにしています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談について、当事業所のサービス利用に限らず、ご本人とご家族にとって最善の解決策を探し、必要によっては他の事業所との連携をとるよう心がけています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居される前にホームに足を運んで頂きながら、ご本人に顔を覚えていただき 職員が馴染みの存在になれるよう工夫し理解を得られるような環境を作れるよう支援しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様の経験を活かし、日常生活においてご意見やご指導を頂きながら、良い関係が築けるようホーム全体で取り組んでいます。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会や面会時などスタッフが意識して家族との意見交換しています。また、ご家族の意見を参考に質の向上に努めています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人とご家族の関わりを見守り、場合によっては職員が間に入りより良い関係でいられるよう努めております。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別ケア時などで自宅へ外出する機会を作ったり、馴染みの関係の方々や手紙や電話にて連絡がとれるよう支援しています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様同士がお互いの関係を認め合い、同居者として関わられるよう職員が同居者として仲介役になり、より良い雰囲気が保てるよう励んでいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了した利用者様との関わりはなかなかとれていない現状にあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの情報を参考にしてコミュニケーションの取れない方に対しても観察力や感性を養い、思いや希望を感じ取れるよう努めています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族などから一人ひとりの生活暦、生活環境を考えて頂き、また 利用者様との関わりの中で知り得た情報をもとに支援につなげています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎朝の申し送り時のミーティングで情報交換したり、バイタルチェックを通し、心身の状態を把握するようにしています。一日の生活の中で関わりを持ちながら有する力を発揮できるように工夫しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時などを利用し、ご家族からも希望や思いを聴き取り、また ご本人の思いも感じ取れるよう、日頃から研修やカンファレンスを通し、意識向上を図っています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の期間に応じて見直しています。モニタリングも毎月行い、変化が生じた場合もご本人 ご家族 職員間で話し合い、新たな計画を作っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容、気づきなどを記録し、毎朝夕の申し送りの中で情報を共有しています。それが介護計画の見直しにも活かされています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族とも連絡を取りながら必要に応じて買い物 病院受診などの支援を行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員や警察、消防、教育機関、地域住民の方々との意見交換の場を二ヶ月に一度実施し、緊急時や催しの場面での依頼、施設側からは、地域作業や勉強会の場を持つなど互いに協力関係が築けるように努めています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	月に一回決められた日に訪問美容サービスを利用しています。また、訪問歯科も必要性のあるときには往診をしています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	二ヶ月に一度 運営推進会議に来て頂き、協働支援に向けて働きかけています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族の希望する主治医がおり、気軽に相談しています。定期受診や必要時は職員が支援しており、無理な時はご家族にも協力を頂いています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在のところ、認知症専門医のいる病院へ受診する機会は作れていません。	○	主治医を通じて精神科医の助言を受けています。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を配置し、医療面での相談ができる体制を取っています。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	日頃より、病院受診や往診時などに入退院についてのリスクや対策、検討についての話し合いを行っています。入退院時にはスタッフと家族が密に連絡を取り対応しています。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご本人、ご家族の意志確認を行い、対応については除々に動き出せる準備を整えてミーティングを重ねています。	○	重度化に伴い、全職員が知識、理解を深め、意識向上を図ってまいります。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医と医療連携は行い、重度化などの対応は取れているが、ターミナルについては未だ確定的な対応はできていません。しかし、主治医やご家族と話し合う機会は設けています。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	管理者とケアマネージャーが中心となり、ご家族や関係との情報交換は行っており、環境の変化によるダメージが小さくなるように努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りに対しては勉強会や研修を通し、意志統一を図っていますが、まだ注意すべき点もあり 接遇の向上に努めていきたいと思っております。記録等の個人情報については漏洩防止が徹底できるよう意思統一をしています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	意思表示の行える入居者様については、お気持ちをくみ取り その方が納得できる方向での支援を行っています。難しい方に関しては、ご家族などから生活歴をお聞きし、その方に合ったケアができるように心がけています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴には限度がありますが、それ以外の時間は一人ひとりのペースを大切に、ご本人の希望通りの一日を送って頂いています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	好みの服をお聞きしながら、身だしなみの支援をさせて頂いています。理容はホームに来ていただき希望があれば添えるようにしたいと思います。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様それぞれの好みを伺い メニュー作りに反映し、食事の準備や後片付けも入居者様と一緒にしています。また、季節に応じた野菜などを入居者様と共に育て、収穫した野菜を食する機会も設けています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物 おやつは利用者様のご希望を伺いながら楽しめるよう支援しております。現在のところ、お酒、タバコを希望される入居者様はいらっしゃいませんが 希望があればご本人の望むよう支援していきたいです。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定時のトイレへのお誘いや使用するオムツの種類について話し合いを行い、利用者様一人ひとりが気持ち良く排泄できるよう援助しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間を決めて支援していますが、入浴が必要になった場合や利用者様のご希望があれば、随時調整をしています。週三回の入浴を行い利用者様同士の関係も考慮し援助しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動の機会を意識的に増やし、夜間の安眠に繋がるように活動しています。薬剤の使用をなるべくさけられるよう、ご本人の生活リズムが把握できるようにクラブを作り、パターンの把握に努めています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの得意分野を見極め、お皿洗い 洗濯物たたみなどの家事から、味噌作り、切り干し大根作り、花植えなど利用者様の経験を生かした支援ができるように考慮しています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方はご自分で一定額を持って頂き、ご自分の使いたい時に使っていただけるように支援しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者様のご希望に応じて散歩、ドライブ、買い物などホーム内にもらず、なるべく外へ出る機会を設け、季節を感じられるよう支援しています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者様の希望に応じて温泉やピクニック 外食などの機会を作り、ご家族にも声かけを行い、可能なときはご一緒いただいています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は毎月共に作成し、書ける方についてはスタッフがお手伝いしています。電話についてはご家族側の事情も考慮して必要時かけられるよう支援しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族が気軽に訪問できるような雰囲気作りに努め、居室などでゆっくりくつろげるように配慮しています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月一回の合同ミーティングで何が拘束にあたるかなどを教育し、再確認しています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅要求が強くあつたりする際は一緒に外へ出て、散歩をしたり、隣の棟へ出向いて気分転換を図り、落ち着いて頂けるようにしています。	○	玄関から出ることにつづかないことによって事故の原因とならないよう全職員の意識確認を行っています。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら、夜間の巡視を行い、昼間も距離を置いたりしながら安全確保のため見守っています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	食事の下ごしらえを手伝っていただく時は包丁も見守りで使用していただいているが、それ以外は適切な場所に保管しています。医薬品も鍵付きのロッカーで保管されています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のため、予測される事については 情報交換や話し合いをもちできるだけ事前に防止できるように努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年二回 消防署の協力を得て、救命講習を行っており、応急手当や蘇生法について勉強し、職員が対応できるよう努めています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議にて地域住民や消防署、駐在所とも話し合いを行い、協力を得られるよう働きかけを行っています。		毎月のミーティングで夜間の火災時を想定しqシミュレーションを行って、全職員の意識確認を行っています。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプラン作成時、ご家族に説明し、同意を得ています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックや表情の変化、食事摂取量のチェックなどにより、観察力を深め、早急に異変に気づくように努めています。スタッフ間で情報を共有し、主治医と連絡を取ったり、必要時 受診するなどしています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を元に情報を職員間で共有し、症状の変化の確認ができるよう注意しています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表を毎日つけ、把握に努めていますが利用者様によっては なかなか確認が難しい現状にあります。できる限り把握に努め、便秘ぎみの方にはヨーグルトや飲むヨーグルトなどの乳製品や食物繊維の多い食品を取り入れています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に歯磨きの声かけを行い、できる部分はご本人の作業を確認しながら、足りない部分やご自分では困難な利用者様には職員がサポートしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂量や食事量が把握できるよう記録し、必要量摂取できるよう努めています。咀嚼能力に応じて食事形態も工夫しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防委員会があり、インフルエンザの予防接種やノロウイルスの対策などについて対応策を検討、実践しています。感染委員が中心となり予防研修などにも参加しています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所用具などは毎晩ハイター消毒を行い、食材に関しては買い溜めは行わず、食材係が定期的に鮮度の良い食材を購入しています。定期日に冷蔵庫の掃除を取り入れるなど、衛生面に配慮しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	暖かみのある雰囲気作りが行えるよう 玄関前には鉢植えやプランターを置き、季節ごとの花を植えています。門戸も開いており、気軽に出入りができるようにしています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールなど共用空間は季節感を取り入れた展示物を貼ったり、ソファでくつろげたりして居心地よく過ごせるようにしてあります。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下およびリビング、ソファを設置しており、個人がいつでも気軽に利用できるようにしてあります。それぞれ利用者様の行動に合わせて見守りを行っております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	利用者様に合わせたベット配置を行っており、それぞれ 写 真またはお人形などお気に入りの物を置いたりして過ごしや すい部屋に工夫しております。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	毎日 気温や湿度のチェックを行い、換気も随時行っていま す。利用者様一人ひとりの身体状況を配慮しながら温度調 節もしております。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	歩行される方については、各場所に手すりを設置し、安全で 自立した歩行ができるようにしております。車イスの移動にも 十分なスペースも確保しております。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	各居室にも名札と目印をつけており、洗面所の歯磨きの道具 もお一人ずつケースに入れ、名前も表示してあり、混乱がな いように配慮しております。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	天気の良い日は毎日 外気浴をしており、グランドゴルフなど レクリエーションを取り入れ、利用者様同士のコミュニケー ションを深めるように取り組んでおります。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームには両棟で囲んだ広い中庭があり、天気の良い日には庭で外気浴や散歩などを支援しています。外に出で身体を動かすことによって屋内では得られない刺激がありスポーツをしたりと精神的な気分転換にも最適だと考えています。庭の中に畑を作り、草むしりや水まきなど手入れをしながら野菜を作り、収穫 調理 食事と共同生活を楽しんでいただけるよう支援しています。また、合同レクリエーションを楽しみ、スタッフ 利用者様 共になじみの関係づくりに努めています。